

フツーの人たちに聞いたことから概念を構築することについて

～概念工学に向けて～



2016年4月25日
応用哲学会第七回年次研究大会
@東北大学

概念を定義する、構築する営みについて

- 社会心理学も哲学も、概念を定義したり構築したりしてきた
- その方法
- 職業的にその訓練を受けている(賢い?)人たちが議論しながら作る
- ← 哲学、社会心理学
- 自由記述、質問紙などで普通の人に聞いたことを基に作る
- ← 社会心理学、実験哲学

議論の趣旨

- フツーの人から、質問紙法などのEmpiricalな手法で得たデータをもとに、概念を定めることについて考える
- 議論の題材: 社会心理学、実験哲学が行っていること
- 概念を構築とすることをやっているが、その実際はいったい何なのか
 - 概念を構築することについて、フツーの人から得たデータはどのように用いられているのか、何を目指しているのか
- 問題となること、進むべき方向
- 概念工学(的)な発想にむけて
 - 社会心理学は概念工学的側面を持つが、その健全な行き先は？
 - 実験哲学的営みについては？

哲学者の直感が「共有」されない

- 哲学者以外の人には、哲学者のように考えない(ことも多い)
- 一般人といってもさまざま。文化などにより異なる
 - そもそも、個人差だってある
- これらが明らかになること自体の「博物学的価値」
- 一方、文化差・個人差が存在すること自体、不思議ではない
- 差異の説明が問題なら、実験哲学は社会心理学に吸収される(かも)
- 問うべきは、この知見を使って、概念について何がいえるのか、概念をどう作るべきかについて何がいえるのか

社会心理学の事情

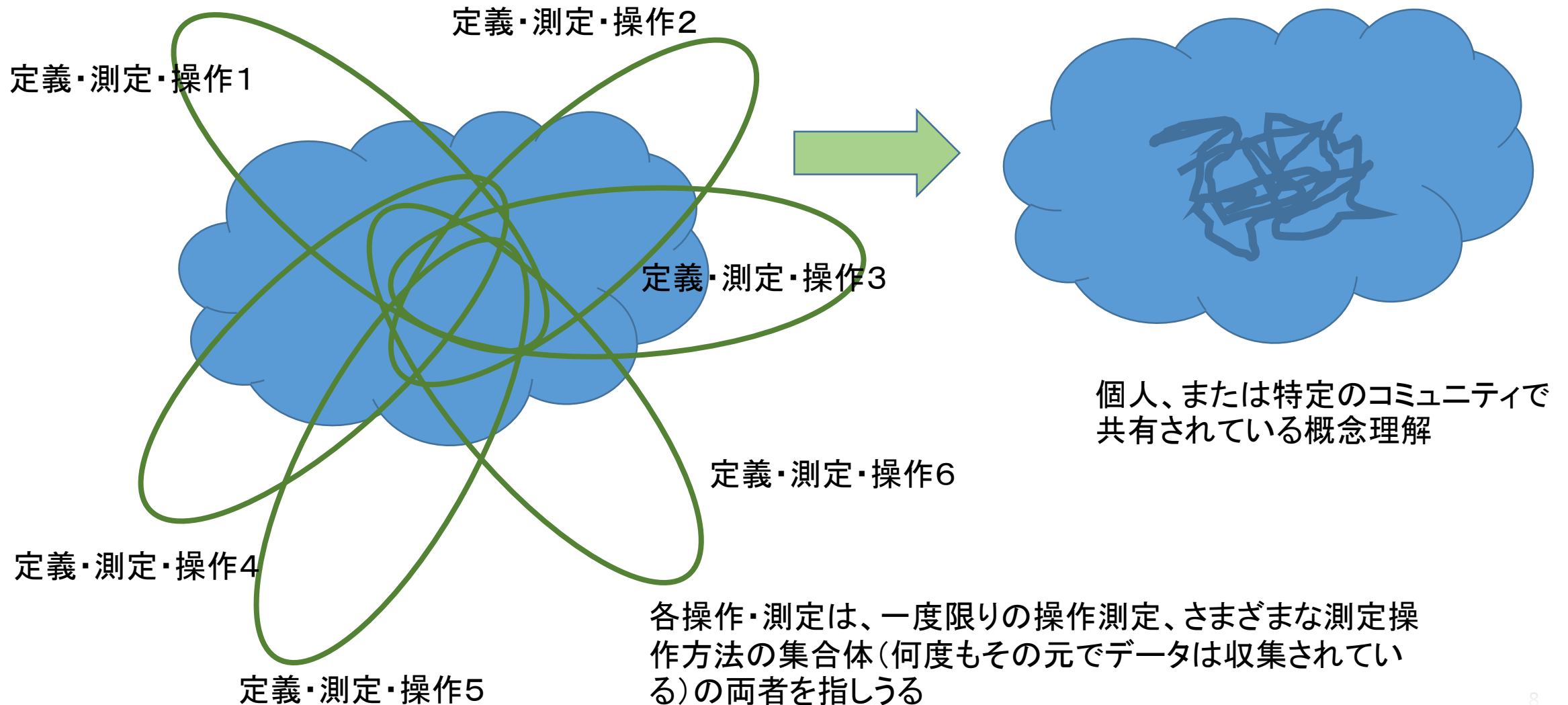
社会心理学と概念構築

- ある研究テーマにおいて、現象を説明するにあたって重要な役割を持つ心的機能や主観的状态、状況認知のあり方などに着目し、それを言葉で定義した上で、それをうまく反映していると思われる操作や測定を開発する
- 自尊心: 自己に対する肯定的、または否定的態度
→ 成功失敗FB, 自尊心尺度
- 社会的アイデンティティ: 所属集団の一員としての自己定義
→ 集団シンボルを部屋に設置、社会的アイデンティティ尺度
- 自己意識: 特性として自己に注意を向けること、その傾向
→ 鏡を置く、自己意識尺度

概念の構築：尺度構成を通して

- 尺度を開発することにより、操作レベルで概念を定める
 - 関連する文言の収集→質問文の構成
 - 基本的には「そのように思うー思わない」程度を回答させる
 - 信頼性と妥当性の検討
- 尺度による概念構築は、具体的には、質問項目の内容(文言)決定と、低位尺度の構造を見定めることにより行われる
 - 因子分析等による項目の意味的まとまりの同定
 - これ自体が概念の構築という側面を持つ
 - あらかじめ構造を想定して項目作成することも←理論(言葉による定義)が先行
 - 言葉による定義が「確証されるかどうか」も重要な検討点

社会心理学における概念取り出しイメージ

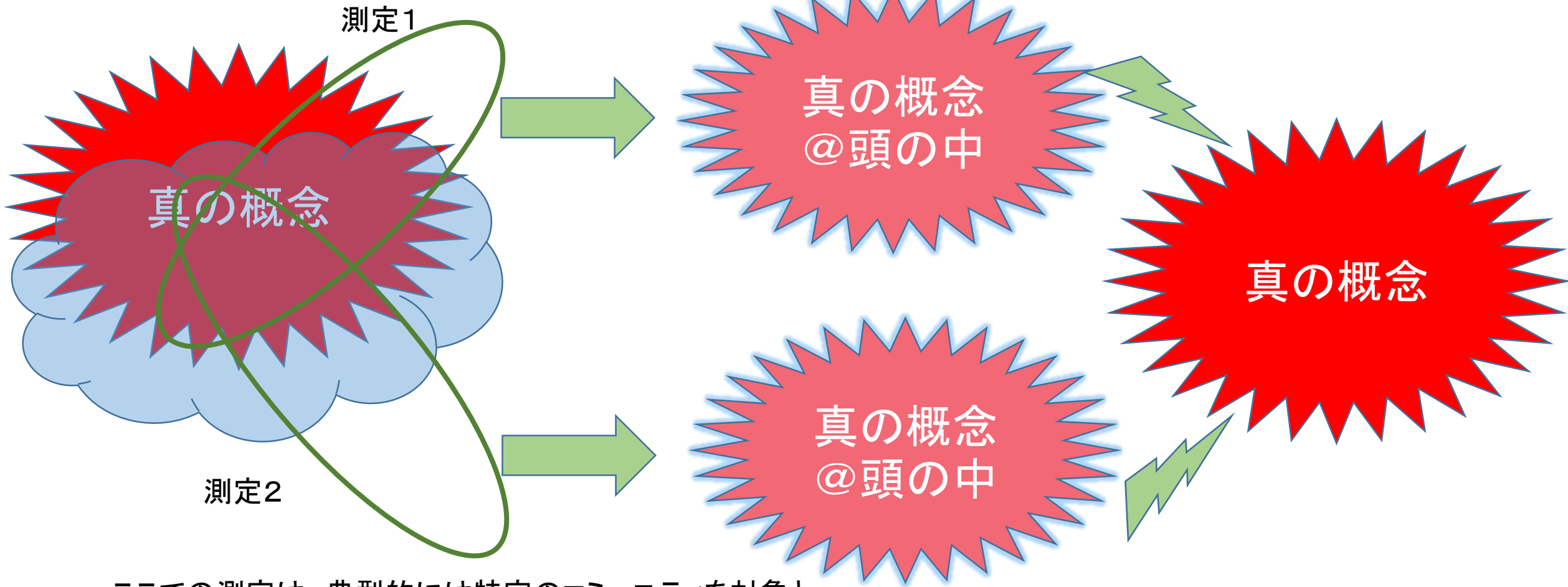


「唯一の真の概念定義」想定は希薄

- 例えば自尊心
 - James, 1892: 自己に対する満足、不満足であり(願望に比しての)成功、失敗で決まる(自尊心=成功/願望)
 - Rosenberg, 1965: 自己に対する肯定的、または否定的態度
 - Leary et al., 1995: 他者から排除されているか否かを主観的に感じ取ったもの
 - Tafarodi & Swann, 1995: 自己有能性と自己好意の二つから構成される
- どれかひとつが正しいという考え方はない
- これら総体として捕まえている(ように思える)ところのもの
- 関連する少し離れたところの「自尊心」にかかわる知見と「整合的に」説明ができる、結果が得られることは重視する
- むしろ操作レベルの定義は複数あるほうが望ましいかもしれない

(実験) 哲学はどのようなのか？

個人、または特定のコミュニティで共有されている概念理解



ここでの測定は、典型的には特定のコミュニティを対象としたもの(文化差研究)や一般を対象に異なる尺度で測定したもの

どの概念構築が良いのか

- もやっとした概念の中心を取り出そうとはするが、複数の取り出し方
- どれが良いのか、その選択基準は？
 - 最低限のバイアス・操作の交絡問題をクリアしたうえで...
- 良い概念(それに伴う操作・測定)は「仮説検証や理論構築・行動の説明に好都合」であること、「他の知見」と整合的であれば(楽という意味で)よく、不整合でも「合理的な」問題提起ができればそれも良い
 - 仮説や理論が関連するドメインをうまく捕まえて有用な議論ができるもの
 - 自己制御→自己の自由意志: FWDS、攻撃行動→行為者性: 渡辺ら
 - 仮説確認バイアスをもたらすともいえるが、検証の失敗を重ねるよりも、理論的整合性を持った結果を得た上で、それらを集めて整合性を見出すことにより、精緻化していく方略

どの概念構築が**良い**のか

- もやっとした概念の中心を取り出そうとはするが、複数の取り出し方がある？

あるものを良い方向へ作り替える
という「工学的発想」

をクリアしたうえで...

人から聞いたことを手がかりにして
どこかにある真の概念を見出す
という「宝探し」ではなく

人から聞いたことを手がかりにして
より良い概念を「作る」

えて有用な議論ができるもの

、行為者性、適応性

どこかに「真の概念」がある
という前提が、邪魔にならない？

織化していく方略